



大 三 輪 長 兵 衛 叙 勲

右 謹 テ 裁 可 ヲ 仰 ク

明 治 四 十 年 十 二 月 十 八 日

内 閣 總 理 大 臣 侯 爵 西 園 寺 公 望 印

内

閣

めくられず

137

賞勳局上申第四五二號

官報 勳章 第四九六

立リナシ裁

明治四十年十二月十六日

ハ

出

印

内閣總理大臣

望

賞勳局總裁



大三輪長兵衛叙勳ノ件別紙ノ通議定候條
此設允裁ヲ仰ク

内閣

明治四十年十二月十三日

賞勳局總裁

書記官

可

福原 忠雄

議定官

否

議案

大三輪長兵衛

右者永く韓國ニ在テ皇帝ノ信任厚ク當時
我對韓政策ノ困難ナルニ際シ同人ノ韓廷ニ

賞勳局

緣故ヲ有スルノ故ヲ以テ之ヲ我政策ノ執行ニ
利用シテ得ル處尠カラズ殊ニ明治三十七年二月
日韓議定書締結ニ關シテハ内旨ヲ授ケテ裏
面ヨリ駐韓公使ヲ補佐セシメタル等日露戰
役ニ付テモ其功勞不尠趣依テ外務大臣ノ稟請
ヲ勘査シ勲等ヲ擬議スル左ノ如シ

敘勲四等授旭日小綬章

大三輪長兵衛

右ハ日清戦役後韓國保護権ノ確定スルニ至ルマテ数年
 間露國ノ勢力陰然韓國宮中ニ根底ヲ占ムルノ傾向ヲ
 示シタルモ我ハ公然之レト對抗スルノ不得策ナル政治上
 ノ理由ヲ有セルト同時ニ韓廷ハ猜疑以テ常ニ我ヲ迎フルノ
 形勢ニシテ帝國ノ政策ハ頗ル困難ヲ感シタリ此時ニ際シ
 十有数年以來韓國皇帝ニ招聘セラレ幾多ノ官職ヲ
 歴仕シ資憲大夫ニ任シ正ニ品勲三等太極章ヲ拝受シテ
 皇帝ノ信任厚ク是等ノ緣故ヲ韓廷ニ有スルノ故ヲ以テ
 同人ヲ我政策ノ執行ニ利用シテ得ル處不尠殊ニ明治三十
 七年二月日韓議定書締結ニ際シテハ當時歸朝中ナリシ
 同人ニ内旨ヲ授ケテ韓國京城ニ出張セシメ裏面ヨリ駐韓公使ヲ
 補佐シ議定書ノ締結ニ盡力セシメタル等日露戦役ニ関シ
 テモ其功少ナカラズ而シテ今ヤ韓國ノ地位既ニ確立シ同人亦
 七十有四歳ノ高齡ヲ重ネテ目下重態ニ陥リ餘命幾ハク
 モ無之次第ニ有之候依テ此際前叙ノ功績ヲ録セラレ同
 人ハ勲四等旭日小綬章叙賜被仰出候様御詮議相成
 度此段及稟請候也

明治四十年十二月九日

外務大臣伯爵林董



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

外務省

履 歴 書

大阪府大阪市西區西長堀南通四丁目第三十
一番屋敷平民

大三輪長兵衛

天保六年六月四日生

明治三十四年八月

一榎本外務大臣ノ紹介ヲ經由シテ朝鮮國皇帝陛下ノ招聘ニ應ジ渡韓
十有數年間教多ノ官職ヲ歴仕シテ正二品資憲大夫ニ至リ勳三等ニ叙シ
太極章ヲ授ケラル

同二十七年六月

一我對韓政策ニ就キ内命ヲ奉レテ韓國皇帝及其權臣ニ説ク所アリ

同二十九年二月

外 務 省

一韓國王妃事件ニ關聯シテ排日熱勃發遂ニ政変ヲ起シ皇帝ノ露國公使
館ニ投スルヤ善後ノ内命ヲ奉レテ帝國ノ為メ大ニ盡ス處アリ

同二十九年三月

一米國人既ニ京仁間鐵道敷設權ヲ取得シ佛國公使ノ露國公使ト相結
シテ京義京釜間鐵道敷設權ヲ韓國政府ニ強請スルヤ之ヲ未發ニ探知
シテ歸朝ニ東上シテ遂ニ澁沢榮一、大倉喜八郎等ノ賛成ヲ得テ發起
人會ヲ組織シ再三兩國間ニ往來苦慮盡瘁ノ結果露佛ノ防害運
動ヲ打破シテ同三十三年三月ニ至リ遂ニ京釜鐵道敷設權ヲ獲得シ又韓
皇ヲ説キテ宮中直轄ノ鐵道院ヲ創設セシメ同院監督ニ任セラレ規模廣
大ナル一切ノ敷地用地ヲ無代價ニテ同會社ニ附與セシメ後テ京仁線ヲモ
米國ヨリ買収シテ現金ノ京釜鐵道ノ基礎ヲ為シタリ

同三十三年八月

一韓國ノ特産物タル紅蔘ヲ拳ケテ純然タル皇室ノ經營トスルノ議起ル

ヤ米國人某該販賣權ヲ取得セント企テ運動甚ク昂ム即チ韓皇ニ説クニ江蔘ノ由来日本人ト関係深遠ナルヲ以テ遂ニ「ブラオン」ニ代リテ蔘政檢察大員ニ任セラレ該販賣權ヲ我ニ并物産會社ノ掌中ニ歸セシメ且ツ同時ニ我公使ノ委囑ヲ受ケテ多年我政府ノ希望セシ京畿道沿海漢獵權ヲ約諾セシメタリ

同三十七年二月

一日韓議定書締結ニ際シテハ當時歸朝中ナリシニ内旨ヲ受ケテ韓國京城ニ出張シ裏面ヨリ我駐韓公使ヲ補佐シ議定書ノ締結ニ盡力セリ

外務省